

京都大学 大宇陀観測所

京都大学理学部宇宙物理学教室の大宇陀観測所は、奈良県中東部の宇陀高原にあって海拔約400mの山地に位置している。このあたりは古く万葉の頃の狩猟場であって、柿本人麿の

「ひむがしの野にかぎろひの立つ見えて  
かえり見すれば月かたぶきぬ」

という有名な万葉の句は、現在の大宇陀町安騎野の丘あたりで軽皇子の御猟にお供した時に詠まれたものであることでもうかがわれる。(ついでにこの句について、歴史的に天文学的に考察し、この時期は持統6年旧暦11月16日の早朝であろうと推測され、かぎろひとは晴れた朝、太陽が地平線上に現れる約1時間前に、東の空にひろがる太陽光線のスペクトル現象であるとされている。今も旧暦11月16日の早朝かぎろひを見る会が催され、全国から多くの万葉ファンがこの丘に集って来る。) 大宇陀観測所には、40/70/120cmシュミット望遠鏡が

設置され、教官・院生等の研究観測に利用されている。観測対象は Extragalactic, Galactic Structure, Interstellar Matter, Stellar と観測者によって多様であるが、1982年開所以来の研究成果は学会やシンポジウムで報告されている。又、ハレー彗星についても IHW (国際ハレーウォッチ) Large Scale Phenomena 部門に参加して鋭意観測が進んでいる。望遠鏡には数年前に偏向型フォトマルとマイコンによるオートガイダーを我が国で初めて開発し装置しているのが自慢でもある。現在 60cm リッチ・クレチアン光学系を試作中であり、シュミットの鏡筒を利用してその実用化も企画している。

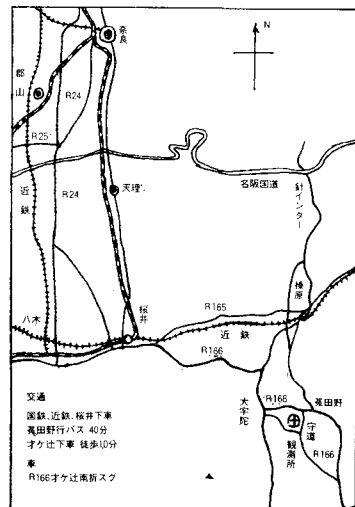
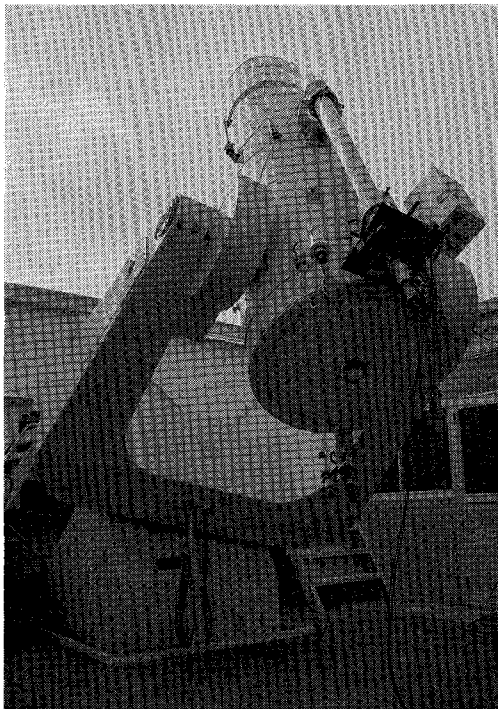
マクストフタイプ K-1420 カメラを設置して撮影した An Atlas of the Northern Milky Way in the H-Alpha Emission を 1982 年に出版したことも知られている。

観測所には常駐職員がいないので公開はしていないが、設備の見学を希望される方は京大・宇宙物理学教室に問合せ頂き都合がよければ許可している。

交通案内は、国鉄・近鉄桜井駅より奈良交通バス(菟田野町行)で約40分、オケ辻下車、南へ待歩10分位で着く。近鉄榛原駅からはタクシーで約15分位。車で国道166号線をオケ辻で南折し、守道小学校運動場横を右折すれば観測所の門に着く。

所在地 奈良県宇陀郡大宇陀町守道  
電話 07458-3-3110

(辻村民之)



昭和61年10月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12	啓文堂 松本印刷
定価 450 円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 (0422) 31-1359	振替口座 東京 6-13595